北から南から

宮城県立支援学校女川高等学園の『総合防災訓練』

～生徒の主体性を育み支える防災教育の推進～

宮城県立支援学校女川高等学園
寄宿舎指導員長　高橋 敦

1 女川高等学園について

本校は、東日本大震災において津波による甚大な被害を受けた宮城県牡鹿郡女川町に2016年（平成28年）に開校した、軽度知的障害のある生徒を対象とした高等部のみの特別支援学校です。３年間全寮制の寄宿舎が併設されており、防災教育にも力を入れています。卒業後に地域で働き、暮らしていく生徒にとって必要な「生きる力」を醸成し、自らの命を守り、他者や地域に貢献できる社会人としての育成を目指しています。

2 本校寄宿舎の「自治会活動」と「総合防災訓練」について

近年では、さまざまな災害に備えることの重要性が一層高まっていると感じます。また、生徒の大半が東日本大震災を経験・記憶として知らない世代へと移り変わる中、被災地で防災・減災について学ぶことは大変貴重な機会です。また、自治会活動では、組織の運営や協力・協調することの大切さを学ぶとともに、防災・減災を主軸とした取組を通して主体的な学びと防災意識の向上につながっています。その自治会活動の集大成として、開校２年目から毎年継続している行事が「総合防災訓練」です。例年、地域住民の参加も呼び掛けており、地域とのつながりや地域の中での貢献、互いに助け合うことの大切さを学ぶ大切な機会となっています。自治会は当時６つの班があり、それぞれが企画・運営を担当しました。訓練当日は、生徒・教職員・地域住民が一緒に体験・学習し、その後に振り返りを行いました。

3 総合防災訓練における各班の取り組み

①環境整備班による「浸水歩行訓練」では、空のペットボトルが敷き詰められたスペースを、タブレット端末に表示された浸水のAR（拡張現実）を見ながら歩くことで、大雨や洪水等、浸水時の歩き難さや危険性をよりリアルに体験する訓練を行い、暗所にて、夜間の浸水避難を想定した訓練も実施しました。②安全点検班による「防災リュック作り」では、参加者を小グループに分け、「乳児がいる家庭」や「高齢者がいる家庭」など設定された条件に沿って必要な物を選び、防災リュックの中身を考える訓練を実施しました。③給食給水班による「炊き出し・配食訓練」では、人数分の非常食を準備したり、豚汁を作ったりして、効率よく全員に配食できるようにする訓練を実施し、昼食として110食分を準備・提供しました。④救護班による「応急処置訓練」では、避難時に想定される「熱中症」と「骨折」の応急処置について、生徒が示す模範を参考に、参加者が互いに処置を経験する訓練を実施しました。⑤総務班による「避難所運営訓練」では、避難者として様々な年齢層や家庭、体調不良者を受け入れる際の避難所での対応を、避難者

①浸水歩行訓練（環境整備班）

②防災リュック作り（安全点検班）

③炊き出し・配食訓練（給食給水班）

④応急処置訓練（救護班）

側と運営側に分かれて学び合う訓練を行いました。⑥広報班による「各班への取材、取組発表」では、各班の班長に日頃の活動の様子についてや総合防災訓練に向けての準備についてのインタビュー取材を行い、動画を作成・上映しました。また、実際に訓練を行った感想を参加者に直接インタビューし、全員で共有しました。

4 取り組みの成果

生徒が自ら企画・運営する経験を通し、防災・減災に対して「自分事として捉える」という気持ちが育まれたと感じます。地域住民からも前向きな評価をいただき、次年度への糧にもなりました。また、震災を知らない世代にとって、地域住民から直接震災当時の経験談を教えていただいたことは貴重な学びの機会となりました。災害時の大変さを疑似的にでも体験することで、日頃からの備えの大切さを知り、いざという時に何らかの形で地域の役に立てる人材へと成長してくれることを期待しています。

校章

女川高等学園HP